

## 第4章 子育て関連団体の結果

---

### (単純集計)



## 1 運営状況について

### ◆事業者名（問1）

問1 貴施設・貴団体の名称をご記入ください。

### ◆回答者名（問2）

問2 回答される方の氏名をご記入ください。

## 2 活動内容・参加者状況

### ◆運営形態（問3）

問3 運営形態についてお答えください（○は1つ）。

No.		n	%
1	NPO法人	0	0.0
2	社会福祉法人	2	25.0
3	公益財団法人	0	0.0
4	任意団体	5	62.5
5	その他	1	12.5
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「任意団体」が5件、「社会福祉法人」が2件、「その他」が1件となっています。その他の内容としては“個人事業として運営”の意見がありました。

### ◆運営年数（問4）

問4 運営年数についてお答えください（○は1つ）。

No.		n	%
1	1～3年目	1	12.5
2	4～6年目	0	0.0
3	7～9年目	0	0.0
4	10～12年目	1	12.5
5	13～15年目	2	25.0
6	16年目以上	4	50.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「16年目以上」が4件、「13～15年目」が2件となっています。

### ◆開設曜日（問5）

問5 開設曜日についてお答えください（あてはまるものすべてに○）。

No.		n	%
1	月曜日	1	12.5
2	火曜日	2	25.0
3	水曜日	1	12.5
4	木曜日	1	12.5
5	金曜日	1	12.5
6	土曜日	1	12.5
7	日曜日	0	0.0
8	不定期	6	75.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「不定期」が6件と最も多くなっています。

### ◆平均利用者数（問6）

問6 1日または1回の平均利用者数（親子合計人数）についてお答えください（○は1つ）。

No.		n	%
1	10人未満	4	50.0
2	10～19人	2	25.0
3	20～29人	0	0.0
4	30～39人	1	12.5
5	40～49人	0	0.0
6	50人以上	1	12.5
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「10人未満」が4件と最も多くなっています。

### ◆スタッフ総数（問7）

問7 事業に関わるスタッフ総数についてお答えください（○は1つ）。

No.		n	%
1	1～2人	5	62.5
2	3～4人	1	12.5
3	5～6人	2	25.0
4	7～8人	0	0.0
5	9～10人	0	0.0
6	11～15人	0	0.0
7	16人以上	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「1～2人」が5件と最も多くなっています。

### ◆配置スタッフ数（問 8）

問 8 1 日または 1 回あたりの配置スタッフ数についてお答えください（○は 1 つ）。

No.		n	%
1	1人	4	50.0
2	2人	3	37.5
3	3人	0	0.0
4	4人	0	0.0
5	5～7人	0	0.0
6	8～9人	1	12.5
7	10人以上	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「1 人」が 4 件と最も多くなっており、次いで「2 人」が 3 件となっています。

### ◆子育て研修参加の有無（問 9）

問 9 スタッフは子育てに関連する研修に参加をしていますか（○は 1 つ）。

No.		n	%
1	参加している	6	75.0
2	参加していない	2	25.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「参加している」が 8 件中 6 件となっています。

### ◆保護者への効果（問 10）

問 10 利用状況から感じられる保護者の効果は何だと思えますか（あてはまるものすべてに○）。

No.		n	%
1	子育てに関する不安や疑問を解消できる	7	87.5
2	子育て支援団体に関するイベントや講座に参加できる	5	62.5
3	子育てに関する知識やスキルを習得できる	4	50.0
4	子育てに関する情報や意見を集約できる	5	62.5
5	地域の子育て世代とのつながりを持つことができる	7	87.5
6	子育てに関する母親の負担を軽減できている	3	37.5
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	8	100.0

○「子育てに関する不安や疑問を解消できる」と「地域の子育て世代とのつながりを持つことができる」が 8 件中 7 件となっています。

### 3 活動上の問題点・課題

#### ◆活動上の問題点・課題（問 11）

問 11 活動していく上での問題点・課題をご記入ください（自由記述）。

- スタッフの最新知識・情報の低下。
- 世代の価値観の違い。
- 先生の高齢化。
- 参加費のかかる施設であるということで周知に苦労している。
- 啓発のための活動を行える余裕のある人が少ない。
- 会員同士のコミュニケーションができてから、サポートメンバーを募る事を考えているが、現時点では実現できていない。
- 活動が忙しいため、ICTツールを活用していけばいいと考えている。
- ボランティア活動であるため、活動に必要な備品の置き場を工面するのに苦労している。
- 10年以上活動を継続できているため、児童センターや社会福祉協議会のご理解・ご協力のもと現状を継続していきたい。
- メンバーが集まらない。
- 新しいマンションができると、子育て世代の登録が同時期となるため、協力会員が不足する。
- 障害のある子どもについて、朝の送迎依頼が増えている。
- 学校と保育園開所時間が異なるため、低学年の子どもの見守り依頼が増えている。
- 精神的に支援が必要な方が増えている。

#### 4 活動を通して感じる、子育てに関する問題点・課題

##### ◆子育てに関する問題点・課題（問 12）

問 12 活動を通して感じる、子育てに関する問題点・課題をご記入ください（自由記述）。

- 若い保護者は結果・効果を急いで求めすぎる。
- 子育て仲間に出会う場が少なく、「赤ちゃん」「子ども」に著しくなれていない保護者が多い。
- 子ども同士で自由に遊んで過ごす時間が少ない。
- 困った時にインターネットで解決しようとする保護者が多く、必ずしも正しくない情報に右往左往している。
- 父親の育児参加がとて多くなっているため良い傾向である。
- アレルギー疾患、特に食物アレルギーによるアナフィラキシーショックの経験がある子どもを育てていく公的サポートが増えてほしい。
- アレルギー治療が必要な子どもについて病院と家庭では連携ができているが、そういった子どもが過ごすための環境づくり（人的要素・設備・環境）が不十分である。
- 子どもの異年齢の幅が狭くなってきている。
- 育児で不安を抱えた保護者の参加がある活動であるため、気楽に育児相談ができる保健師がいると心強い。
- メンバーが少なく個々の負担が大きい。
- 子どもとの関わり方、遊び方が分からない保護者が多い。
- ファミリー・サポート・センターの支援ありきの生活になっている利用者がいるため、支援ができない時の子どもの過ごし方が心配である。
- 転入してきた子育て世代には、孤立した状況で子育てをしている様子がある。
- 保護者の間で、子育てに関する方向性が共有できていない。

##### ◆その他、市へのご意見、ご要望（問 13）

問 13 その他、市へのご意見、ご要望があればご自由にお書きください（自由記述）。

- 障害児には早期の療育が大切であるが、市内に専門的な知識がある方が少ない。
- 市が無料の支援の場を広げることは、時として育ちに良くなることにつながっているのではないかと。
- 「子育て応援券」等を子育て世代へ配布し、親子リトミック・ベビーシッター・家事応援等市内の子育てを支援している場所で使えるようにしてほしい。
- アナフィラキシー症状については、十分な注意を払い安全を守る環境づくりは第一優先であると同時に、ハンディキャップがあっても人の輪の中に入れるような行動・環

境を整えることが必要である。

- アレルギー対応が必要な子どもを包括的に支援できる部署がなく、それぞれの窓口が縦割りの対応していることから市内での情報共有が密でない。
- 教育委員会や子ども子育て支援課にアレルギー専門医を加えたアレルギー対策委員会を設置する等、市内の子どもについてアレルギー対応を総括し、専門的に判断、現場へ指示できる機能が必要である。
- アレルギーの子どもが、「園での対応」「学童・放課後子ども教室への参加」「遠足や就学旅行への参加」が困難ではなく、どの子どもでも参加できるように、看護師・保育士・教員等を配置した新たな居場所づくりを検討していただきたい。
- 育児が、かけがえのない大切な時間であること、とても貴重であることを内容に入れた歌を作り、子育て世代（メンバーも含めて）を応援する歌や音楽で活動が続けていきたい
- 障害がある子どもを育てるご家族に、少しでも気持ちが楽になり、寄り添える活動をしていきたい。
- 多摩川での活動を中心としているため、安全に活動できる整備をしていただきたい。
- メンバーが少なく会費があつまらないため、補助が増えると助かる。